

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立白川小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 837-0927

福岡県大牟田市中白川町1丁目183

E-mail shirakawa-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 164名 女子 164名 合計 328名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「社会の持続可能な発展をめざして」を学校理念(※もしくは活動テーマ)として、ESDを持続可能な社会づくりの担い手を育む教育と捉え、ESDの実践を通して現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができる力の育成を目標とした。

具体的には、福祉、環境、エネルギーを柱に、①「ひと」に係わる活動、②「もの」に係わる教育、③環境に係わる学習、④エネルギーに係わる学習を行った。

### ① 「ひと」に係わる活動

3年生「伝え合う心」(総合的な学習の時間)

障害をもつ人について関心を持ち、自分なりの課題を見出し、目や耳の不自由な人の気持ちを理解し、課題解決に向けて意欲的に取り組む活動。(福祉)

- ・ 目や耳の不自由な人のことや点字や手話や設備等について知っていることを話し合い、アイマスク体験をする。
- ・ 視覚、聴覚障害の人の話を聞き、インターネットや本で情報を収集する。
- ・ 追究したことをまとめ、交流したことを振り返る。

### 6年生「お年寄りとの交流会をしよう」（総合的な学習の時間）

認知症の現状を知り、福祉の問題を自らの課題として受け止めて考える活動。校区内の小規模多機能施設を訪問し、お年寄りと進んでふれ合う活動。（福祉）

- ・ 認知症について学習し、大牟田市の現状等を調べる。
- ・ 医療ソーシャルワーカーの方をゲストティーチャーとして招き、小規模多機能施設のお年寄りの様子を聞く。
- ・ 可能な交流をグループ毎に計画して実践し、振り返ったことをまとめる。

### ② もの」に係わる教育

#### 1年生「ひとつぶのたねから」（生活科）

身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にする活動。

#### 2年生「レッツゴー 町たんけん」（生活科）

自分達が住む町を探検し、町の自然、人々、社会、公共物等に関心をもつとともに、自分達の生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接したり安全に生活したりする活動。（環境）

### ③ 環境に係わる学習

#### 5年生「白川の緑を守ろう」（総合的な学習の時間）

「市内で一番広い運動場」をキーワードにして校内にある木を調べ、身近な自然に関心をもち、樹木の果たしている役割やその大切さを校内から地域へ伝え広め、緑の環境を守っていかこうとする考えを深める活動。（環境）

※ 詳細は後述

### ④ エネルギーに係わる学習

#### 4年生「ゴミ減量大作戦」（社会科・総合的な学習の時間）

社会科の学習や社会科見学から、環境問題に気付き、ゴミ減量についての課題をつかみ、自分から進んで資料を集めたり、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の呼び掛けをしたりする活動。（環境・エネルギー）



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><li>・調べよう ごみと資源 全6巻</li><li>・見学！自然エネルギー大図鑑 全3巻</li><li>・エネルギー あなたはどれを選ぶ？ 全3巻</li><li>・今こそ考えよう！エネルギーの危機 全5巻</li><li>・未来につなぐ資源・環境・エネルギー 全3巻</li><li>・親子でつくる自然エネルギー工作 全4巻<ul style="list-style-type: none"><li>① 風力発電 ②太陽光発電 ③小水力発電 ④太陽熱・バイオ発電</li></ul></li><li>・電気がいちばんわかる本 全5巻</li><li>・ごみゼロ大作戦！めざせ！Rの達人 全6巻</li><li>・ごみはいかせる！へらせる！ 全3巻</li><li>・水ってなんだろう 全5巻</li><li>・日本地図からよみとく日本のインフラ図鑑<ul style="list-style-type: none"><li>② エネルギーのインフラ</li></ul></li></ul>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・ ESD を核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成している。
- ・ 住みよい町づくりに取り組む人や高齢者が多いという地域の特色から、福祉・環境・エネルギーに関わる課題を主に取り上げ、総合的な学習の時間や生活科を中心に行っている。
- ・ 指導内容は、学習指導要領との関連付けを図っている。
- ・ 各学年のねらいを明確にし、学習内容と各教科や各学年間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるようにしている。
- ・ 教師間の協力的な指導等の指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 知識習得の学習から関係性や多様な出会いを重視した学習に重点を置く。
- ・ 校内の指導体制や地域との協力体制をつくり、学習が効果的に進められるようにする。
- ・ 個々のテーマに基づいて別々に実施していた学習を ESD の視点で統合的に再構築することにより、より地域の課題に結び付いた学際的で実践的な学びに発展させる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・ 評価の方法…教師の適切な判断に基づいた評価、異なる評価方法や評価者による多様な評価、評価を学習活動の終末だけではなく、事前や途中に適切に位置付けて実施。
- ・ 評価の具体的内容…学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関すること。
- ・ 成果…自分を取り巻く環境について、自分事として考えることができるようになってきた。
- ・ 課題…指導と評価の一体化。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・活動成果の発信方法…表現発表会(学校行事)での学習内容の発表、掲示物による学習活動の発表。
- ・内容…活動の目的、内容、方法、感想等。
- ・発信により得られた効果…児童が自分達の活動を振り返ることで学びの内容を再確認することができた。次の学習活動の課題の設定につなげることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・教育委員会、地域の社会教育機関、NPO 等との連携等を通じて、開かれたネットワークを築くよう努めた。
- ・学校内外における各種研修の充実・活用を図る等、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、持続的に発展するよう心掛けた。
- ・経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ・相手の良さを認め合い、学び合う学習を実施し、将来的な国内外のユネスコスクールとの交流のためのネットワーク構築に向けて取り組んだ。
- ・ESD の推進拠点として、実践に取り組み、その成果を発信することを通じて、ESD の理念の普及に努めた。
- ・ユネスコスクールの教員や教育関係者が一同に会する大会や、地域の研修会等に出席して、他校の優れた ESD 実践事例を学び意見交換等をした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ ESD を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成できるよう努めることができた。
- ・ 生活科・総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てる等、指導内容を適切に定め、更に、指導方法の工夫改善に努めることができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- 学校の教育活動を通じて以下の児童を育成する。
  - ・ 現在の社会や自分達の行動が未来につながっていることを認識する子どもの育成
  - ・ 人々や世界とのつながり、自然環境との関係を尊重する子どもの育成
  - ・ 主体的に課題や問題をとらえ、解決していこうとする態度をもった児童の育成
- 地域の特色から、福祉、エネルギー・環境に関わる課題を主に取り上げ、総合的な学習の時間や生活科を中心に行い、各教科等との関連を図る。
- 「大牟田版SDGs」の中から以下のものを重点的に行う。
  - 3（すべての人に健康と福祉を）
  - 7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）
  - 11（住み続けられるまちづくりを）
  - 12（つくる責任つかう責任）
  - 15（陸の豊かさを守ろう）
- 体験や実践を重視し、地域との「つながり」や「かかわり」に対する意識を高めるようにする。
- 各学年のねらいを明確にし、学習内容や各学年の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるようにする。
- 校内の指導体制や地域との協力体制をつくり、学習が効果的に進められるようにする。